

関係者各位

大川地区医師会
在宅医療・介護連携支援センター

在宅医療・介護連携推進事業「医療・介護関係者の研修会」報告について

令和6年度 在宅医療・介護連携推進事業「在宅医療・介護関係者の研修会」を下記の通り開催いたしましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 令和6年11月21日(木) 18:30～20:35
2. 場 所 東かがわ市交流プラザ(東かがわ市湊 1806-2)
3. 対 象 大川地区医療機関(医科・歯科・薬局)、介護事業所、居宅介護支援事業所、入所施設
地域包括支援センター、在宅医療・介護連携委員
4. 研修内容

【パネルディスカッション】 テーマ:「災害における対応について」～それぞれの立場から現況と課題を考える～

講師: <コーディネーター >

岡田 真樹氏 (阪本病院 副院長)

<パネラー>

笹岡 昇氏 (さぬき市民病院副院長・香川県災害医療コーディネーター)

林 珠美氏 (香川県立白鳥病院看護部長・香川県看護協会第1支部支部長)

中島 彰子氏 (香川県立中央病院薬剤部臨床薬剤科長・災害医療認定薬剤師)

田中 陽子氏 (特別養護老人ホーム絹島荘施設長)

【グループワーク】 テーマ:「災害対応における自施設の現状と課題、今後の取り組みについて」

5. 参加人数 全体97名 さぬき市36名 ・ 東かがわ市61名

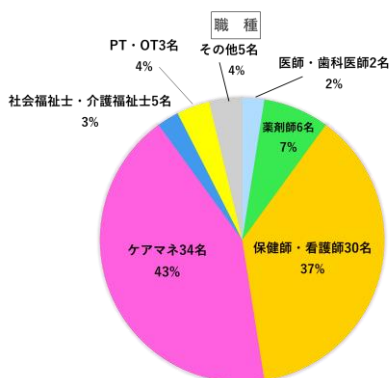
1)受講者状況(重複有)

職種	医師 歯科医師	薬剤師	保健師 看護師	介護支援 専門員	管理者 相談員	PT OT	その他
人数	5	11	31	26	9	2	13
比率(%)	5	11	32	27	9	2	13

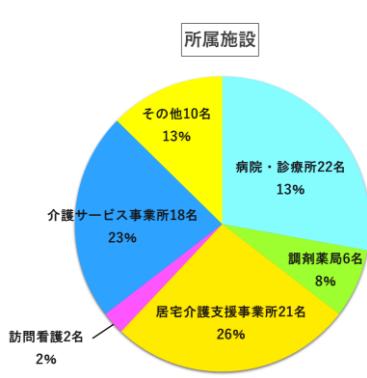
6. アンケート結果 回収数 79名(回収率 81%)

1)回答者状況(重複有)

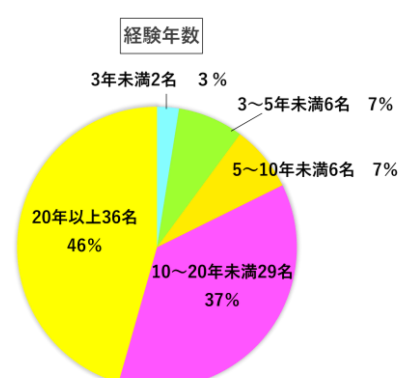
(1) 職種



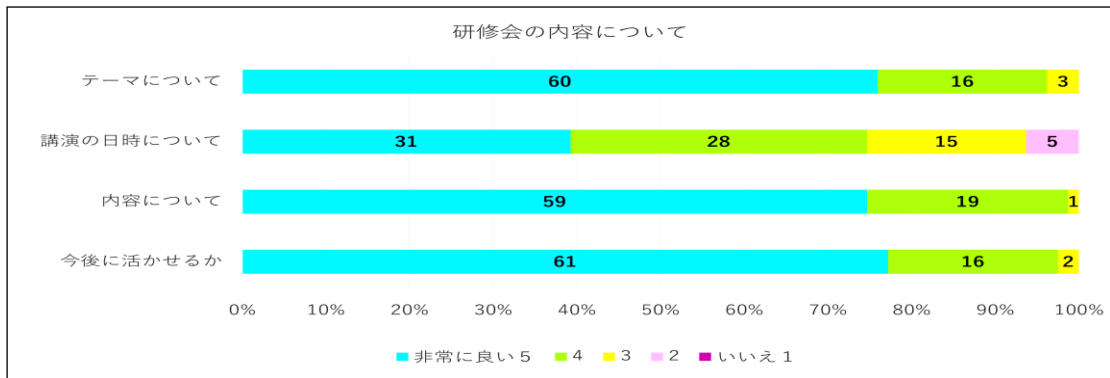
(2) 所属施設



(3) 経験年数



2) 研修会の内容について



3) 今後の参加希望について

	参加する	参加しない	どちらとも言えない
人数(人)	75	0	4
比率(%)	95	0	5

今後の参加希望について



4) 研修会に対する意見や感想

- ・普段関りが少ない他職種(医師や行政)の方とのグループワークは有意義で刺激になった。色々な立場から災害時における取り組みを学ぶことが出来た。同じような課題で参考になる事もあり、取り入れていきたい。各々の事業所の内容を持ち寄り共有するだけでも、地域連携が図れると思った。 23
- ・普段交流の少ない方々と意見を聞くことが出来て(顔の見える話し合いが出来て)、有意義な研修会だった。 22
- ・香川県の災害対策の現状、今後の課題について知ることが出来た。各病院、施設の取り組みや地域で活躍するケアマネの悩みや葛藤、どの様に情報を共有できるか、SNSの活用など参考になる話が聞けて有意義な時間を過ごせた。
- ・今後も定期的(年に1回は)に実施して欲しい。 7
- ・自分たちの足りないところがあった。 6
- ・普段からの準備や訓練が重要であることが再認識できた。災害への意識レベルを高める必要がある。災害訓練を実際に行うことが出来ておらず、回数を行うことが重要だと感じた。出来ることから何か行動を起こしていきたい。
(ハザードマップの把握や連携についてなど) 5
- ・災害対策は医療、福祉、地域の連携が大切だと思った。また、自助・共助の考えも大切なので意識しようと思う。 3
- ・グループワークではどの職種の方も、まずは自分や家族の安否確認、体調管理をしたうえでないと他の人は守れないということが前提にあった。自家発電や蓄電器の不足を感じた。日々の自身の健康管理も大切だと痛感した。 3
- ・災害時の災害マップ、アクセス、備蓄、災害支援ナースの育成も必要。(リーダーシップをとれる人材育成) 2
- ・災害対策について、地域で取り組んでいく必要性も感じた。熱心な地域とそうでない地域との差を、どう埋めていくかが課題。情報、連携の輪が広がれば良いと思った。 2
- ・BCPは作成したが、自分の気持ちの中で甘く見ている部分があると感じた。もっと想定してきちんと取り決めをしておかないと、実際起こった時に行動できないと思った。机上の空論にならないように、出来るマニュアルを作っていく必要があると思った。 2
- ・実際に被災地に行かれた方のお話をもっと聞いてみたい。炊き出しなどの経験をしておきたいと感じた。 2
- ・災害については意識が高く、取り組みが進んでいる。これから始めるという施設でも、優先順位は高く考えられ、人命を守るという使命感を感じた。

- ・グループが2事業者だけだったので、もう少し他職種の方と話せるとより良かったと感じた。 2
- ・施設(病院)と在宅ではBCPの考えが少し違うので、チーム分けを考えても良いと思った。
- ・薬剤師の方の発表がやや専門的だった。
- ・次回はもっと医療機関との協議がしたい。
- ・CSCATTT 気になります。
- ・出来たら日中にしてほしい。
- ・参加人数も多く、パネラーの先生方からの話をもう少し聞きたかったので、研修時間がもう少し長い方がよかった。

5) 今後研修会で取り上げて欲しいテーマについて

- ・地域連携(病院と施設等)、情報交換 5
- ・感染対策(BCPも含めて) 3
- ・CSCAについて
- ・ヤングケアラー、高齢者・障害者の貧困・孤独など
- ・緊急時のメンタルトレーニング(臨床心理士を交えて)
- ・同じ内容を更新していく事も大切なのではないか。その中から課題が出てくるのでは。
- ・ACPについて

※CSCA Command and Control(指揮と連携)、Safety(安全確保)、Communication(情報収集伝達)、Assessment(評価)を指す災害発生後取るべき行動である基本原則

CSCATTT 上記CSCAに Triage(トリアージ)・Treatment(治療)・Transport(搬送)を含めたもの。

通常、CSCATTT は、CSCA(メディカルマネージメント)とTTT(メディカルサポート)に分割して考えられる。

7. 所感

今回の研修会では、近年頻発する地震や集中豪雨などの自然災害に対して、発生時どのようなことが起こりうるのか知っておき、特に人命を預かる医療・介護関係者は、その予防に対する知識や準備、心構えも必要ではないかという視点から開催しました。様々な分野で働く医療介護関係者が、それぞれの立場での防災を考え、更に多職種で共有できたことは、今後の協力体制への構築のきっかけ作りにもなったのではないかと思います。

研修終了後、笹岡先生からいただいたコメントです。

「地域の災害医療を支える構図からすると災害拠点病院はピラミッドの頂点のような位置づけになるかと思っています。その下には救護病院やクリニック、施設、在宅支援、行政、公共機関など、被災者、要支援者を支えている数々の階層が作られていて、それぞれの立場で活動していくことでより強固な連携システムが構築されていくのではないのでしょうか。災害拠点病院としては、災害医療は当然として、保健・福祉に関しても知見を広めて、関係機関とともに歩んでいかなければいけないと痛感しました。

今回の研修会が好評だったことはとてもうれしく思います。災害に関連する危機管理は、通常の業務にも応用できる考え方だと思いますので、災害ということではなく、危機管理の一部分と考えていただければハードルが低くなるのではないかと思います。次年度も新たな視点で災害に関する研修会が開催されることを期待したいと思います。」

笹岡先生のおっしゃる「災害に関する危機管理は、通常の業務に応用できる。危機管理の一部分と考えていけば、ハードルが低くなる。」という言葉を糧に、話し合いで得た様々な内容を、少しずつでも日々の業務に活かしていっていただけたら幸いです。

大川地区医師会 在宅医療介護連携支援センター
在宅医療コーディネーター 木田恵美子